

大和川自然再生の取り組みについて 令和3年3月

大和川では、令和3年3月に『大和川自然再生計画』を更新し、“大和川の豊かさを育む”河川環境の再生を目標に位置づけました。今後も、多様な生きものが生まれ育ち、自然環境が有する多様な機能が発揮されるよう、自然再生の取り組みを進めていきます。

これまでの自然再生の取り組み状況

連続性の再生

・魚道を設置することで、魚が川の上下流や、支川へ移動しやすくなります。



流域との連続性：珊瑚珠川魚道

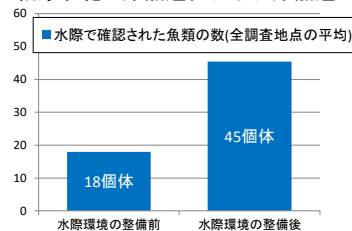
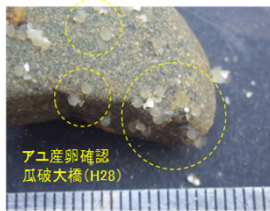


上下流の連続性：柏原堰堤左岸魚道および右岸魚道



瀬・淵の再生

水際環境の再生



自然再生の目標

大和川らしい河川環境の再生
～大和川の豊かさを育む～

生物多様性の基盤、景観、レクリエーションの場の提供、減災・防災機能などの、自然環境が有する多様な機能が発揮される豊かな大和川を育む。

自然再生メニュー

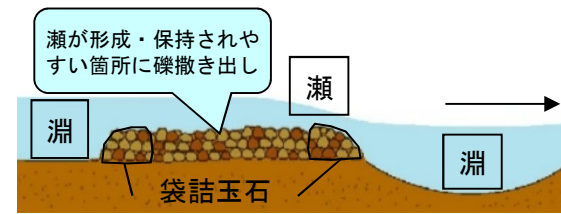
・自然再生メニューの「魚の上りやすい川づくり」のうち、連続性の再生、瀬淵の再生、水際環境の再生を自然再生事業として実施します。

| 再生メニュー | |
|--------------|--------------------------|
| 自然再生事業 | 魚の上りやすい川づくり |
| | 上下流、流域との連続性の再生（魚道） |
| | 瀬・淵のある多様な流れの再生（袋詰め玉石埋設工） |
| 水際環境の再生（捨石工） | 水際植生のある多様な環境の再生（ワンド工） |
| | 干潟、汽水域の保全・再生 |
| 河川水質の継続的な改善 | |
| 自然環境、景観の保全 | ヒキノカサ自生地の保全 |
| | 外来植物の適正な管理 |

整備メニュー

①瀬・淵の再生

・河床に玉石を埋めることで、瀬や淵などの流れの変化が生まれ、アユなどの産卵場やヨシノボリ等の生息場となります。

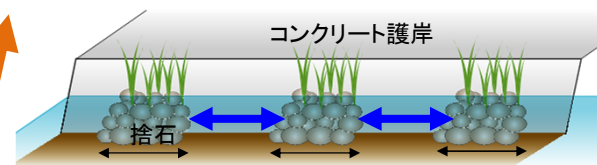


瀬・淵 整備イメージ



②水際環境の再生（捨石工）

・これまでと同様に人口護岸の水際に石をまとめて置くことで、魚の避難場所や住処となる植物の育成や、水中の石と石の隙間の形成を行います。

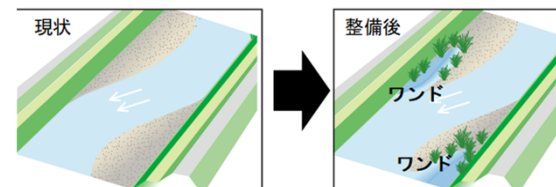


水際環境（捨石工） 整備イメージ



③水際環境の再生（ワンド工）

・水際を一部掘ることで、稚魚や、トンボ類のヤゴ、オタマジャクシなどの生息・成長の場となるワンド（川と繋がる池のような場所）をつくります。



水際環境（ワンド工） 整備イメージ

